長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金 報告書

2024 年 6 月 19 日

国際経営学部国際経営学科 4 年

刈込舜介

はじめに

私は、2023 年 9 月から 2024 年 6 月の 9 ヶ月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州の University of California, Davis (以下 UC Davis)に交換留学生として派遣されていました。新型コロナウイルスの感染拡大も落ちついてきた時期ではありましたが、大変な状況の中このような貴重な機会と本奨学金の給付というご支援を頂き、国際経営学部の教授方、事務室の方々、関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。本報告書では UC Davis での 9 ヶ月間の経験を学習面と生活面をメインに記していきます。

留学にあたって

今回、国際経営学部の交換留学に応募した理由は、大学入学前から海外留学に興味があったからと言うのが一番大きいと考えています。そのこともあり、附属校からの進路選択の際に、短期留学を必修科目として経験できる国際経営学部を選択することになりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により Global Studies Iがオンラインでの開催となり何か不完全燃焼感を抱いていました。そんな中、3 年次に進級する手前、自身の将来を考えるにあたり、英語はそれなりにできるけど将来的な業務に繋がるかは分からない、

学業もとりあえずそつなくこなしている、など自分自身に中途半端さを感じました。そこで新しい経験や人間としての厚みが欲しいと考え、交換留学への応募に至りました。また、実際に日本の外に出て新しい世界を見ること、客観的に日本を見ることで新たな価値観や物事に対する視点を得られるとも考えました。その中でも UC Davis を選んだ理由としては、多様なバックグラウンドを持つ人が多いアメリカの中でこれまで訪れたことの無かった西海岸でなら、多くの新しい経験や価値観を得られると期待したからです。

UC Davis での学習面

UC Davis は 1905 年に農業専門学校として創立されたのち、UC Barkley や UC LA と同様のカリフォルニア大学(UC)システムのメンバーとなった公立大学です。始まりが農業専門学校であったこともあり、農学はもちろん、医学、獣医学などの理系が特に有名です。そのため、キャンパス内に馬や牛などの飼育場があり、日常の中で動物を見かけることも少なくないです。

キャンパスの様子

学期システムは Quarter 制を用いており、1 学期約 3 ヶ月(10 週間)が基本的なスケジュールとなり、学ぶペースは比較的早いです。交換留学生は 1 学期 12~13 単位の単位取得制限があり、基本的に 1 学期では 3~4 つの授業を受講することになります。私は在籍していた 3 学期間で以下の 12 個のクラスを受講しました。

・HIS 17B History of the United States
・MGT 11B Elementary Accounting
・UWP 24 Structures Academic Writing
・CMN 10V Introduction to Communication
・ECN 1AY Principle of Micro Economics
・LIN 1 Introductory Linguistics
・ART 10F Contemporary Art Appreciation
・MGT 11A Elementary Accounting

・MST 20B The Culture of the High Middle Ages

国際経営学部での学びの延長線上である経営学(MGT)や経済学(ECN)を中心に幅広く色々な授業を経験できたと考えています。履修の面で交換留学生としてひとつ困難だったことが、履修における優先順位の低さというのが挙げられると思います。履修期間にはまず現地生が登録を行った後で交換留学生の順番が回ってくるため、取りたかったクラスが既に定員いっぱいなどで他のクラスを取らざるを得ないなど、どうしても仕方のないことは現実として起こることがありました。しかしそのおかげで、他の学部のこれまで触れたことのない領域の授業を経験できたので結果的にはプラスだったと考えています。

授業のスタイルとしては多くの場合、1 つのクラスがレクチャーとディスカッションの 2 つのセクションから構成されており、レクチャーでは比較的大きなホールでの集団講義を行い、ディスカッションでは少人数に分かれてその週の集団講義の内容のキャッチアップが行われます。個人的にはこのディスカッションセクションが大変有益なものであったと感じました。その週で浮かんだ疑問をその週のうちに解決できる上に、少人数のため個別の質問にも対応してもらえるので講義内容のさらなる理解につながったと考えています。成績の評価方法としては、中間・期末試験、レポート、プレゼンなど授業ごとに異なりつつも、国際経営学部での学び方とは似たようなところも多く感じました。

3 学期の中で履修した 12 個のクラスの中で特に印象に残った 2 つのクラスがあります。1 つ目は、MGT 11A, B Elementary Accounting です。この授業は簿記の初級のクラスに当たるので、基本的な仕訳から決算表の読み方、原価計算など、簿記 3 級から 2 級レベル

の内容を順番に扱っていきました。毎週の課題やディスカッションクラスでの補修もあり、クラス全体として学生の理解をサポートしていると感じましたし、私自身も深く理解できました。また、授業内で実際に TESLA などの実在する会社の決算表を読むこともあり、実践的な学習にも繋がりました。何より、帰国後に簿記の資格を取ろうと考え、簿記の勉強を始めたばかりの自分にとって、日本語だけでなく英語の簿記用語を学べたことは自身の世界が 1 つ広がったと感じています。2 つ目が ART 10F Contemporary Art Appreciation です。このクラスでは様々なアートジャンルにおいて大きな影響をもたらしたアーティストの作品とその背景についての理解を深めました。アートにおけるバックグラウンドを踏まえた上で実際に課題として個人制作の作品を提出することもあり、自己表現の 1 つとしてアートを用いることで新たな価値観に気づけたと考えています。もともとアートには興味がありましたが、美術大学に進学したわけではないので授業として学ぶことはないと考えていましたが、Art Major のある UC Davis で講義を受けられたことは大変貴重な経験となりました。

生活面について

UC Davis は交換留学生に対して寮の提供をしていないため、交換留学生はホームステイかアパートメントの二択が基本となり、私は 9 ヶ月間ホームステイを行いました。私のホームステイ先では基本的に自分を含めて 3 人の学生が同時期に滞在し、9 ヶ月の間に

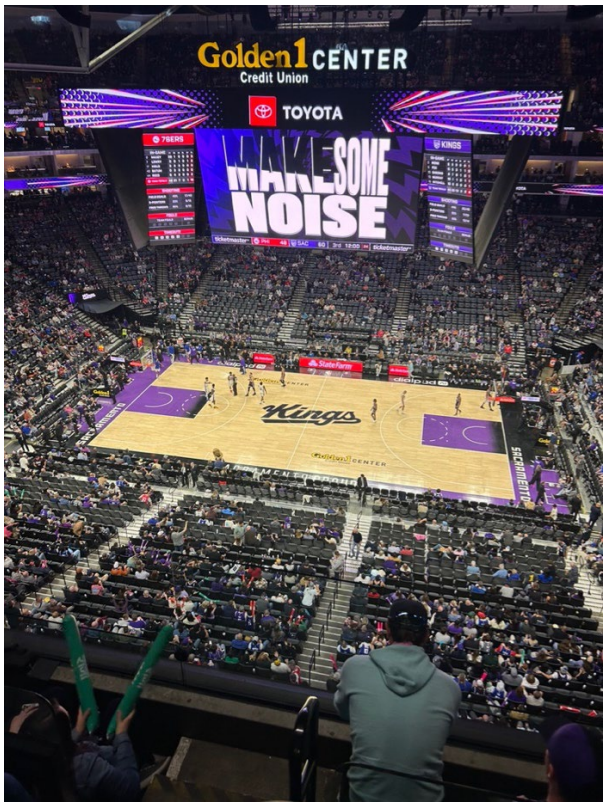
入れ替わりで 6 人の留学生と生活を共にしました。日本人 3 人、台湾人、ベトナム人、サウジアラビア人と生活し、他国の文化を教えてもらうなど新しいことだらけの日常でした。ホームステイの場合アパートメントでの 1 人暮らしに比べて制約が多かったり、共同生活の中でのトラブルもあったりしましたが、それらを踏まえても得られることが多かった生活環境だったと感じています。Davis で生活する上で欠かせないものの 1 つに自転車が挙げられると思います。街自体が非常に平坦であり、多くの住人が日々の生活の中で自転車を利用しています。バスも通っていますが、30 分に 1 本程度の本数なので、学生の多くが自転車や電動スクーター、スケートボードなどで通学しています。

個人的な学業以外のキャンパス内での過ごし方としては、スポーツをすることが多かったです。アメリカの大学では Fusion というアプリを用いて Intramural Sports という、学内でのスポーツリーグが学期ごとに開催されています。私はそこで、現地で会った友人とチームを作りサッカーやバレーボール、ソフトボールを楽しみました。アメリカの大学は日本の大学と比べてキャンパスが大きいこともあり、学生が自由に使えるサッカーコートやバレーボールコート、テニスコートもあり、Intramural Sports に関係なく時間がある時にも友人とスポーツをしていました。特にサッカーは個人的に好きなスポーツということもあり、ただコートに行きその場に集まった名前も国籍も知らない他の学生とプレーするピックアップというものにも参加しました。最初はサッカーに関する英単語も知らず、まともなコミュニケーションを取れない状態でしたが、上手くプレーすれば周りの人たちも

リアクションをくれたり、スポーツを通じて新たな出会いがあったり、本質的なスポーツのボーダーレスさに気付かされとても良い時間を過ごすことができました。

サッカーチームの写真

キャンパス外では、日本と同様ご飯を食べに行ったり、買い物をしたりしましたが、Davis 自体町として小さいため近隣のサクラメントやサンフランシスコに行くことも多かったです。これらの大きな町の方がショッピングモールなどもあり、できることの選択肢も多くありました。サクラメントにはサクラメントキングスという NBA のバスケットボールチームがあり、生の NBA の試合を見に行くというアメリカでしかできない経験もできました。



サクラメントでの NBA の試合

また、カリフォルニア州内にある Lake Tahoe や Yosemite に行き、大自然に囲まれることもアメリカらしい経験でした。冬休みなどの長期休暇ではロサンゼルスといったカリフォルニア州内の少し距離のあるところから、カリフォルニア州外のニューヨークやボストンに訪れることもできました。特に、西海岸と東海岸両者の違いを直に触れることができたのはとても貴重な経験となりました。ロサンゼルスとニューヨークというどちらも大都市として有名ですが、東西で街の風合いが全く違うことに実際に訪れたことで気づくことができました。

Lake Tahoe

Yosemite

特にボストンに関しては、ボストンキャリアフォーラムという就職活動のイベントのために訪れたということもあり、間違いなく自分自身を 1 段階成長させてくれた渡航でした。当初私は、大学 3 年の後期に交換留学へ挑戦することに、年々早期化している就職活動を鑑みると少し不安を感じていました。実際、日本と時差がある中でのオンライン面接と、留学中の学業の両立は大変でした。しかしそのような困難な環境に挑戦しているからこそ得られる経験もあり、そこを評価していただけることもあると実感しました。ボストン現地では様々な国と地域から他の学生とも交流する機会があり、同時期に海外留学に挑戦しているということから、多くの刺激を受けました。海外からの就職活動は、日本のみで行うのに比べて違うことも多くありましたが、その分日本で得ることのできない視点や価値観も得られると考えています。もしも、就職活動がネックで大学 3 年次での留学を行うか検討しているのであれば、その挑戦自体が評価されると私は考えているので、気にせず、ぜひ挑戦してほしいと思います。

総括

この 9 ヶ月間は、自分の世界を大きく広げてくれた留学生活であったと考えています。もちろん言語的な意味合いで、英語を少し話すことができるだけでコミュニケーションを取れる人の数が格段に増え、交友関係という世界が大きく広がることを身をもって痛感しました。また、交友関係が大きく広がることでこれまで触れることのなかった文化に

触れる機会が大きく増え、新たな価値観を得ると共に見える世界も大きく広がったと考えています。またこれらは、日本にいるだけでは中々経験することが難しい類のものだと思いますし、そのような経験ができたことに非常に感謝しています。改めて、このような貴重な機会を与えてくださった国際経営学部のすべての関係者の方に感謝申し上げます。